

グリーンコープかごしま生協の吉野寺みらい食堂から

～子どもから大人まで誰でも気軽にこれる居場所づくり～

2021年4月24日にオープンした吉野寺みらい食堂は、グリーンコープかごしま生協組合員の末吉美和子さんが吉野寺の門徒会館を提供し、子どもの居場所兼食堂として運営しています。今回、居場所の運営に関わるグリーンコープかごしま生協の別所理恵子副理事長と末吉美和子さんにお話を聞いてきました。

—吉野寺みらい食堂ができたきっかけを教えてください。(組合員：末吉さん)

「2018年の目黒区女児虐待事件(※①)や2019年の野田小4女児虐待事件(※②)など子どもが虐待を受け、その小さな命が失われてしまった報道を見るたびに愕然としていました。私は地域にコミュニティなどがあったら救えた命もあったんじゃないかと思うよう



末吉美和子さん(左)
別所理恵子副理事長(右)

になりました。コミュニティをつくり、地域の大人達が子ども達を見守っていくことで、地域の大人達の目が行き届くようになり、子ども達が安心して過ごせる地域ができていくと思います。また、子どもへの虐待から救いの場所があったらいいなと思ったことも原点にあり、この吉野寺門徒会館を活用して、子どもの居場所をつくりたいと思うようになりました。でも、私一人では子どもの居場所をすることは難しいと感じていたので、勇気を振り絞ってグリーンコープさんに話しを持ちかけてみました」

※① 2018年に東京都目黒区で虐待を受けていた5歳女児が死亡し両親が逮捕された。十分な食事を与えず女児の臓器は正常な5歳児より5分の1も委縮していたほか、暴行の影響で衰弱し、ほぼ寝たきりの状態だった様子。

※② 2019年に千葉県野田市で執拗な虐待を受けていた小4女児が死亡した。亡くなった女児は浴槽で発見され、亡くなる直前には暴行の後に、真冬に浴室で冷水をかけられるなどされていた様子。

—そのことがきっかけでグリーンコープでの検討が始まったとか。(副理事長：別所さん)
「2019年4月頃からグリーンコープかごしままでプロジェクトメンバーを立上げスタートしました。コロナ禍の影響を受け、オープンまでに時間はかかりましたが、そこは十分な準備期間として捉え、地域で以前から子ども食堂をしている団体のところへノウハウを学びに行くなどして進めてきました」

「子どもの居場所をスタートする前の2020年秋ぐらいから、地域をはじめ、小・中学校や社会福祉協議会などにチラシを配りました。その時、この地域で子どもの居場所を開催することに多くの方から賛同をいただきました。そして、この3月にプレオープンし、4月から正式に稼働させることができました」



—開催頻度は。(副理事長：別所さん)

「毎月第4土曜日に開催し、営業時間は11時30分から13時30分までです。18歳以下は無料にし、大人は食事を300円で提供しています。ここには家族で来られる方、近隣住民やその他の地域の方など、色々なところから来られ、また幅広い年齢層の方が来てくれます。今日は100名を超える方々が来られ大賑わいでした」

—運営スタッフのことを教えてください。(副理事長：別所さん)

「グリーンコープの理事メンバーが中心となり、地域の民生委員やボランティアを含め、総勢30名ぐらいで運営しています。開催日には、朝から食事の準備に大忙しです。厨房だけでも10名ほどのスタッフが活躍しています」



「また、ボランティアで地域の民生委員の方も参加いただいています。子ども食堂は食べることも困難な状況にある子ども達が対象だから、自分たちが気軽にご飯を食べに行ったらいけないというイメージでしたが、ここは家族で来られる方も多く、『誰でも気軽に来れるような雰囲気で運営されているから、子ども食堂のイメージが変わりました』と嬉しい意見もいただいています」

—たくさんの食材はどのようにして調達していますか。(副理事長：別所さん)

「色々なところからの支援で成り立っています。地域の農家の方からお米をいただいたり、かごしまこども食堂・地域食堂ネットワークという団体から子ども食堂で使うための食材提供を受けたりしています。もちろんそれだけでは全てをまかなえないので、グリーンコープのフードバンクを活用し、たくさんの食材支援を受けています。グリーンコープの食材を使用して、安心して食べてもらえるような料理が提供できています」

—ふれあい活動として、物づくり活動もされているとか。(組合員：末吉さん)

「児童クラブなどで活動されている方が、吉野寺の門徒さんになって、その方が中心になってふれあい活動をしています。ご飯を食べた後は、別の部屋で物づくり体験を行っています。今日は紙皿を使ってバックを作りました。コロナ禍のなか、人と距離をとることが求められる今、地域で交流できる場所を提供していきたいと思っています」



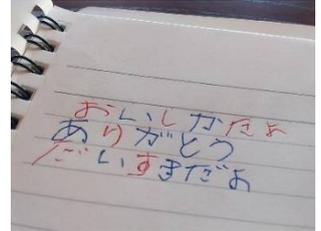
—嬉しかった出来事など教えてください。(組合員：末吉さん)

「いつもここに一人でご飯を食べにくる男の子がいます。この前、偶然その男の子とばったり会ったとき、ジーッと私を見ていたので手を振ったら、その男の子も手を振ってくれました。『ああ、私のことを覚えてくれたんだ』ととっても嬉しくなりました



た。こうやって少しずつ顔見知りになって、今後、関係を築いていくなかで、その子が困っている様子があったときは『どうしたの』と声をかけ、何かの助けになれるといいなと思います」

「あとは、子どもたちが『ご飯が美味しかったです』や保護者の方から『私は母子家庭で子どもも多いので、子ども達も私もとても感謝しております。現在の状況のなかでも、人の温かさ



や優しさに関わり、前向きな気持ちも持てます。本当にありがとうございました』など、ここに来てくれた方から、たくさんの感謝の声をいただけたことがとても嬉しかったです」

—子どもたちと関わる中で大切にしていることは。(組合員：末吉さん)

「この頃、子どもの孤食の問題がありますが、私は人間一人では生きていけないと思います。ここに来て、温かいご飯をみんなで食べるだけでも救われることもあると思います。この場所は、心が和んで、誰が来ても『居心地がいいな、ここにいていいんだ』と思ってもらえるような居場所にしたいと思っています。実は、スタッフ側もここが居場所を感じている方も多いです。誰かの役に立てることに生きがいを感じ、毎回ボランティアに来て下さる方が何人もいます。やっぱり、する側が楽しんでいないといけないと思います」

—今後やってみたいことは。(副理事長：別所さん)

「今ある吉野寺みらい食堂をはじめとして、かごしまの他の地域でも子ども食堂をやりたいと、グリーンコープの会議などで意見が出ています。今後、グリーンコープかごしまとして、子育てサポートワーカーズを立ち上げて、子どもの居場所の取り組みが、事業として担えるようにしていきたいと考えています。他にも鹿児島市と提携して鹿児島市の指定の家庭にお弁当を配布する事業や学習支援、家庭訪問型子育て支援、鹿児島市の里親制度の取り組みなどと連携して、関りをもっていきたいとも考えています」

—ありがとうございました。